

2005年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2005年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2005年度秋季総合分科会の際の9月20日（火）10時45分より、岡山大学50周年記念館にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第10巻3号の会報119でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介は、今までと同様にご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載することになりました。（五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。）

特別賞

本多 宣博（東工大理工，助教授）

業績の題目：ツイスター空間と自己双対4次元多様体

ツイスター空間は複素多様体の中では「異端の空間」とも言えますが、実に豊かな幾何学的対象であることを実感しています。そのことをより多くの人にわかってもらえるような研究ができればと思っています。どうもありがとうございました。

柳下 浩紀（東大数理，COE）

業績の題目：非線形拡散方程式の解の挙動に関する研究

専門は応用解析学です。興味をもって取組んで来た事の一つは、散逸系で緩和時間が非常に長い現象です。その理想化として緩和時間が無限となる状況を考察の対象にしたりしました。これまで多くの方に支えられて今回の受賞に至りました。今後は、何か数学を生かせる仕事ができれば、と思っています。

山ノ井克俊（京大数理研，助手）

業績の題目：ネヴァンリンナーアルフォース理論の新展開

正則写像の幾何学的な性質に興味を持って研究しています。先人の美しい結果に圧倒されつつも、自分なりの何かを付け加えたい、と格闘中です。今まで御指導下さいました先生方に心よりお礼申し上げます。

奨励賞

伊藤 哲史（京大理，学振 SPD）

業績の題目：代数幾何学における数論的方法

私の研究している数論幾何は、幾何学的直感と整数論的緻密さが交錯する大変面白い分野です。これからも数論幾何的な発想を大切にしながら、既成の分野の枠にとらわれず、独自のビジョンを持って研究を進めていきたいと思っています。

太田 慎一（京大理，助手）

業績の題目：距離空間上の幾何と解析

三角形に補助線を引くような素朴な幾何学を通して、空間の色々な性質を調べています。京都に来て2年が経ちましたが、体は未だ東北人です。指導教官であった塩谷隆先生、井関裕靖先生と両親に感謝します。

高木 俊輔（九大数理，助手）

業績の題目：正標数の手法による特異点の研究

代数多様体の特異点を、密着閉包を始めとする正標数の可換環の理論を用いて研究しています。可換環論の手法から幾何学的な応用が得られればと、日々夢見ています。これまでお世話になった多くの方々に感謝しつつ、この夢を少しでも実現できるように頑張りたいと思います。

高橋 雅朋（北大，学振 PD）

業績の題目：微分方程式及び微分幾何学への特異点論の応用

写像の特異点論を用いて微分方程式や微分幾何学の分野に対して研究しています。やはり新しい対応や分類等が見つかる面白いものです。これからも楽しく様々なことを研究したいと思います。

これまでお世話になった方々、現在お世話になっている方々そしてこれからお世話になる方々に心から感謝致します。

中島 徹（静岡大工，助教授）

業績の題目：変分法による調和写像の特異点のまわりの漸近挙動の研究

最近 `scan` に興味を持っています。今年度は出不精でしたが、来年度は方々に出かけるよう努力します。お世話になった方々に心より感謝いたします。